

今ここにある“多様性”との対話
～「みんな違って、みんないい」ってなんだろう～



第3回 研究部会

府立人研だより

大阪府立学校人権教育研究会事務局

2023年11月14日 第10号発行

12月1日(金)14時より 府立柴島高等学校

阪急京都線「崇禅寺」駅より南西 約300m 阪急千里線「柴島」駅より西 約300m

| 教材部会 | 進路保障部会 | ケーススタディ部会 |
|---|--|---|
| <p>人権教材体験を通じた 教材づくりの研究</p> <p>～生徒観・教材観の検討から 生徒理解の深化へ～</p> <p>報告：府立松原高等学校</p> | <p>多様な生徒実態から、多様な進路実現と その先の進路保障について考える</p> <p>～ともに学びともに育つ、 インクルーシブな環境を通して～</p> <p>報告：府立とりかい高等支援学校 府立枚岡樟風高等学校</p> | <p>人権教育における 「集団づくり」のあり方を考える</p> <p>～多様性が尊重される 学級文化の醸成をめざして～</p> <p>講師：武田緑さん<small>(教育ファシリテーター/学校DE&Iアドバイザー)</small></p> <p>報告：府立柴島高等学校</p> |
| <p>今年度の教材部会は“人権教材を体験してみよう！”というテーマで活動しています。今回の教材部会では安全で安心な学校づくり推進事業の「携帯・ネットに関わる問題」と共同で“SNSの使い方”を通じてそれぞれがもつ感覚の違いに気づくワークを行います。参加者が生徒役となって体験して感じたこと、学び取ったことを共有し、研究協議で生徒観や教材観をふり返り、生徒の理解を深めていきます。ネットリテラシーの向上をめざした「～してはいけない」という学習に終わることなく、「より良いつながりのために学び取ってほしいこと」をねらいとして、生徒の実態に応じた教材づくりに必要な研究につなげていきます。</p> <p>いつものように教材交流会もします。ぜひ、先生方がホームルームや教科の授業等で使用されている(または予定)の教材を30部ほどお持ちください。</p> | <p>予期せぬスピードで変革している社会の流れ・動きと同様に、わたしたちが学校現場で関わりをもつ児童・生徒の背景や支援配慮要件は、今後より複雑多岐にわたっていくことは容易に想像できます。もはやすべての学校で「多様な児童・生徒」を前提とした学校環境の検討は、喫緊の検討課題だといえるでしょう。</p> <p>とりわけ、「多様性」「インクルーシブ」ということばが教育の現場に唱えられる昨今、本当の意味での多様性・インクルーシブとは何か、各学校が考えていくべき観点は何か。今回は、障がいのある生徒の進路保障に関する取り組みの報告とグループワークを通じ、わたしたちのアップデートにつながればと考えています。</p>  | <p>大阪府教育センターの「クラス・学級集団づくりガイドブック」には「集団づくり」は、クラスをまとめるためだけを目指して行うのではなく、一人ひとりの存在が互いに尊重される関係づくりを通して、子どもたちが豊かに成長することをめざして行うものである」と書かれています。</p> <p>では、具体的にどんな集団をめざし、どんな取り組みを行えばよいのでしょうか。ケーススタディ部会では、人権教育における「集団づくり」のあり方について、講演と事例を通して考えます。</p> <p>部落問題をテーマにした講演では、生徒対象の講演で生徒へ伝えたいこと、教職員へ伝えたいこともお話しいただき、人権学習に生かせる内容となっています。また、事例報告では、クラス集団づくりに担任のどんな願いがあり、どんな取り組みをされてきたかをご報告いただきます。</p> <p>※講師の武田さんはオンラインでの参加となります。</p> |

☆お願い☆

名札と上履きとくつ袋をご持参ください



府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内

(通郵便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-Mail furitsuinken@nifty.com (お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。)

U R L <http://furitsuinken.in.coocan.jp/>



↑府立人研 HP も
チェックしてくださいね

「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。